

宝塚市学校施設長寿命化計画 【概要版】

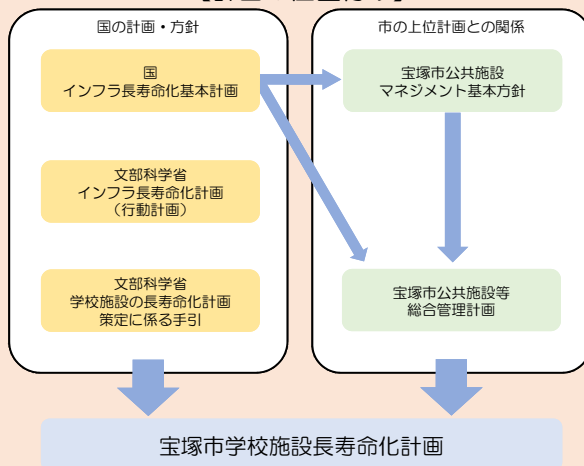
1. 計画の目的等

【目的】
 教育環境の質的向上と効果的な長寿命化対策の実施による、学校施設の維持管理に係るトータルコストの縮減及び財政負担の平準化を図ることを目的とします。

【対象施設】
 小学校24校、中学校12校、幼稚園12園、特別支援学校1校

【計画期間】
 令和3年度（2021年度）～令和44年度（2062年度）＜42年間＞

【計画の位置付け】



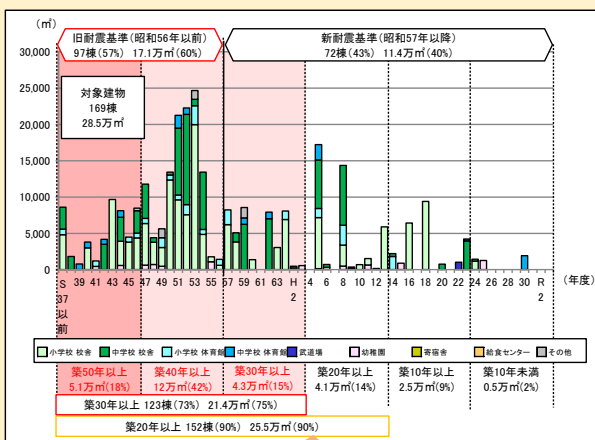
【長寿命化】
 計画的な改修により施設の機能や性能を確保し長く使うことです。

【長寿命化改修】
 物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を現代の求められる水準まで引き上げる改修を行うこと。

【予防保全的な改修＝予防改修】
 将来的に長寿命化を図る建物について、健全な状態に保つための予防的な外部改修や長寿命化に資する改修を行うこと。

2. 本市の学校施設を取り巻く状況

(1) 学校施設の築年度別保有量



学校施設の老朽化の進行、児童・生徒数の減少といった状況下において、直近での対策工事費の集中を回避し、適切な学校環境作りや少子化など時代の変化に対応した学校施設の整備が必要です。

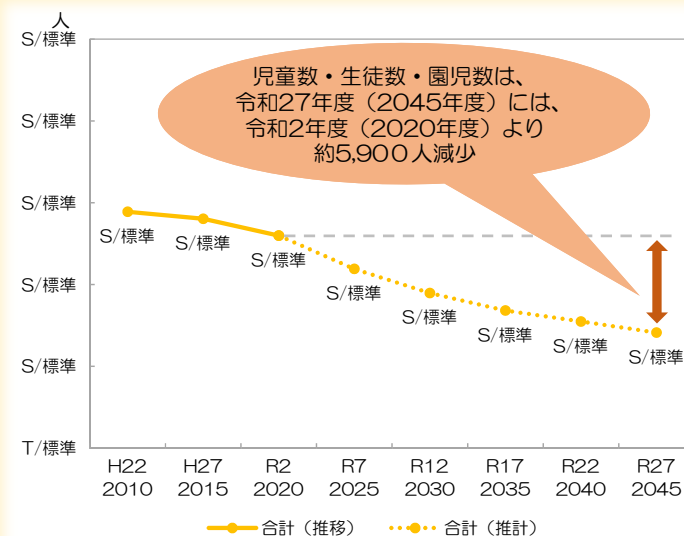
これを踏まえて、今後どのような学校施設整備を行っていくべきかを以下のとおり設定し、今後の維持・更新コストのシミュレーションを行います。

(3) 基本方針

- 安心・安全な学校園の整備
- 時代に応じた教育環境を整備
- 家庭・地域と連携し、子どもの発達を支援

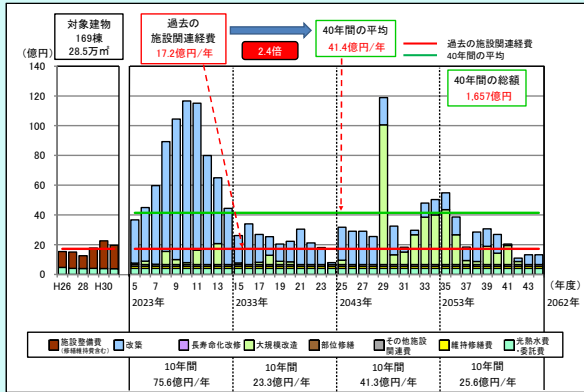
今後10年間で築30年以上の建物が9割近くを占めることになるため、早急な老朽化対策が必要です。

(2) 児童数・生徒数・園児数の推移と将来推計



3. コストシミュレーションと実施計画

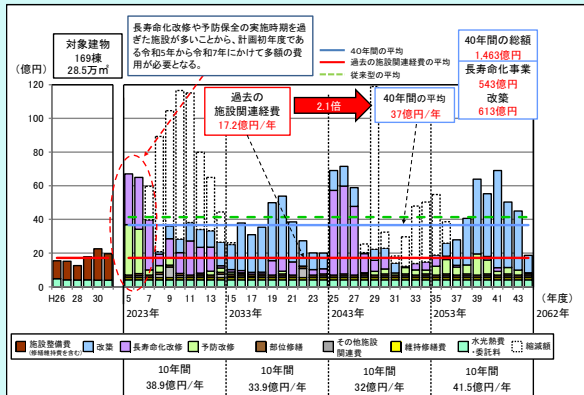
(1) シミュレーション (従来型)



全施設を築50年ほどで改築する従来型管理を行った場合、今後10年間に多額の工事費が必要となります。

長寿命化への転換
-工事費の平準化を図ります-

(2) シミュレーション (長寿命化)

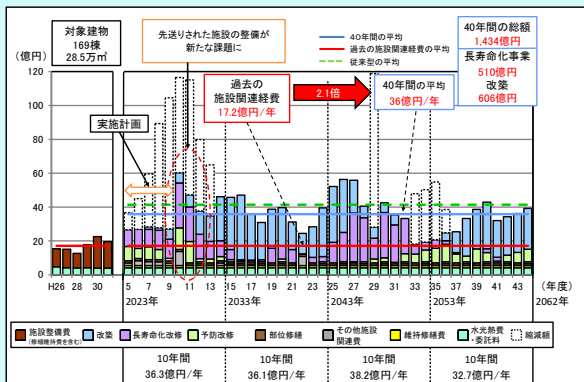


構造躯体の健全性、築年数、過去の老朽改修の実施時期から、長寿命化区分に分類しました。

■改築
長寿命化に適さない建物（築48年以上等の条件）は改築とします。
周期：65年

■長寿命化
機能や性能を確保しながら耐用年数を伸ばします。
周期：80年

(3) シミュレーション (実施計画)



本市の財政状況を踏まえ、直近の実施計画を策定し、さらに平準化を図りました。

従来型との比較

40年間の総額
1,657億円⇒1,434億円
(223億円の削減)

4. 今後の課題と検討事項

(1) 費用の集中

～令和10年（2028年）以降、工事が集中し費用が増大するため更なる検討が必要～

- 耐久性やメンテナンス性を考慮しながら仕様を見直しランニングコストの削減を目指します。
- 改築時期が集中する時期の予算の確保、実施できる体制や方法を検討する必要があります。

(2) 今後の少子化、人口減対策

～施設の保有量削減も含めた施設管理が必要～

- 1人あたりに必要な室の面積は増加傾向にありますが、長寿命化改修、改築の際に必要なスペースや減築を検討、機能の集約化により床面積の削減を図ります。
- 数年後には多数の学校の長寿命化改修が集中しますが、財政状況から見て同時実施が困難なため、学校の規模適正化方針により長寿命化する学校を決定し、改修実施が遅れる学校については具体的な対策を検討する必要があります。
- 廃校後の校舎及び敷地の将来における利用方法について検討する必要があります。
- 近隣校と連携した施設利用、プールの共有化など、さまざまな運営方法を検討する必要があります。

(3) 長寿命化事業の遅延による施設の老朽化

～財政の見通しが立たない状況で、長寿命化改修が遅れる施設の増加～

- 劣化部については、点検により把握し計画的に予防修繕を行っていきます。

(4) 学校環境の整備

～よりよい教育環境のため、工事の実施方法について検討が必要～

- 統合や改築工事では、学校運営に影響が出ることも予想されるため、近隣の代替施設へのバスによる移動の検討も必要となります。
- 宝塚市教育環境審議会において審議されている通学区域の設定、義務教育学校（小中一貫校）の取り組みについても長寿命化計画に反映していく必要があります。

5. 長寿命化計画の継続的運用方法

(1) 情報基盤の整備と活用

学校の状態や改修履歴等を常に把握するため、法定点検に基づき、施設データ・劣化状況調査票の更新を行い、施設情報・工事履歴・劣化状況を管理していきます。

(2) 推進体制等の整備

関係部局と連携を取りながら計画の見直しを行う体制を構築します。

(3) フォロワーアップ

PDCAサイクルに基づき、市の上位計画や方針を踏まえ、おおむね5年ごとに計画の見直しを行います。



宝塚市学校施設長寿命化計画 概要版

令和3年（2021年）3月策定
宝塚市教育委員会